

## 有終の竹島＝独島問題研究

朴 炳 渉

## 北東アジア文化研究

第38号

2014年2月

## 論 説

- 世界穀物市場とアメリカのバイオ燃料生産 藤本晴久……1
- 「佐治谷話」考 酒井董美……15
- サンフランシスコ講和条約と千島・竹島＝独島問題(1)  
朴 炳 渉……43

## 研究ノート

- 梁伯戈・小孟鼎に見える「鬼」について(3)  
—梁国についての一考察— 藤本直子……63
- 内藤正中先生追悼文集 ……………71

鳥 取 短 期 大 学  
北東アジア文化総合研究所

ある日、思いがけず内藤正中先生からうれしい書籍が送られてきました。その本が縁になり、私は先生に師事するようになりました。思い起こせば日本にまだインターネットがなかった1990年代末、私はパソコン通信での議論をとおして竹島＝独島問題の勉強を始めたのですが、そんな時に先生から有用な『竹島(鬱陵島)をめぐる日朝関係史』が送られてきたのでした。それはまさに私が待望していた歴史書でした。

それまでの竹島＝独島の歴史書といえば韓国本の訳書か、あるいは外務省や島根県の官吏、自民党の調査役が書いた書籍しかありませんでした。これらは一見すると客観的に書かれているようにみえますが、資料の取捨選択が激しく、たとえば明治10(1877)年に竹島・松島を「本邦関係なし」と認定した太政官指令などは無視または看過しました。これらの本は、そもそも竹島＝独島が日本領であることを「証明」するために書かれたようなので、都合の悪い史実はカットされて当然でした。同様に訳本も竹島＝独島が韓国領であることを「証明」するために書かれたので、やはり都合の悪い史実はカットされていました。

このように領土ナショナリズムを露わにした歴史書しかなかった時、先生の著書は知見された資料をすべて客観的・学術的に扱ったので、とても新鮮で大いに勉強になりました。この本を手がかりに私は少しずつ原典に当たり、新資料の発掘に努めるようになりました。そうして2007年には先生と一緒に『竹島＝独島論争、歴史資料から考える』(新幹社)を出版するに至りました。この本は日本図書館協会の推薦図書に選ばれたのみならず、韓国語版や英語版も刊行されたほどでした。

翌年、先生は「日本国の名誉のために、史実に基づいて歴史を解明する意図」から『竹島＝独島問題入門』(新幹社)を刊行されました。この書は「歴史の一部をご都合主義でつまみ食いして、その一方で、自分の主張と相容れない事

実は無視して顧みない」外務省を叱責し、「日本国民を惑わす」外務省のパンフレット『竹島問題を理解するための十のポイント』を学問的に批判するものでした。この書は発刊されるや否や、さっそく衆議院である議員が質問主意書の形で取りあげるなど反響を呼びましたが、海外でも英語版や韓国語版が発刊されて国際的にも話題になりました。ふだんは温厚な先生ですが、「学者として到底見過ごすことができない」という使命感に燃えて書かれた著書だけに、内外に相当なインパクトを与えました。このように、たえず学問的情熱のみならず社会的使命感をもって活躍されてこられた先生の長年の業績が認められ、2008年秋、先生に勲章「瑞宝中綬章」が贈られました。

その後も先生は日韓両国のトゲとなっている竹島＝独島問題に関し、歴史研究をとおして日韓両国民の相互理解に役立てたいという志操を堅持なされ、病床にあっても論文を書き続けられました。先生は本誌36号に掲載された先生の論文「竹島一件と安龍福問題」の刊行を見ることなく不幸にも亡くなりました。今後、先生の高邁なご遺志を最後の弟子である愚生が、先生のご遺産である『北東アジア文化研究』誌上で少しでも継げれば幸いです。

(竹島＝独島問題研究ネット・代表)

## 内藤先生との思い出

大 谷 博 美

私が内藤正中先生と出会ったのは、韓国に留学中の1998（平成10）年7月でした。当時先生は北東アジア文化総合研究所の所長で、鳥取女子短期大学の先生方などと一緒に韓国を訪問されていました。その一行の中に中学時代の恩師である今村実先生がおられ、私は今村先生を通じて内藤先生を紹介していただきました。今村先生とは中学を卒業以来疎遠でしたが、私の友人のご主人で、以前韓国の翰林大学におられた鳥村恭則先生が、今村先生と研究を通して交流されていて、その先生から今村先生が来韓されると聞き、ソウルの宿泊先のホテルに訪ねて行ったのです。

先生方は快く迎え入れて下さり、大学のこと、専門分野や韓国についてなど様々な話をしました。初めて韓国に来られた方も多く、ガイドを兼ねて国立国楽院、本屋などをご案内しました。同行した2日間は勉強した韓国語でお役に立てたことが嬉しく、とても有意義なものでした。本当に不思議なご縁で、その折にかねてから気になっていた鳥取女子短大の社会人入学についてもお話を伺い、先生方の勧めもあって帰国後日本文化学科に入学しました。

大学では本科・専攻科と4年間在籍しましたが、内藤先生には日本史、山陰地方史、環日本海論などたくさんのことを教えていただきました。先生の授業はとても興味深く、特に韓国江原道についての授業が面白かったのを覚えています。

先生は言うまでもなく博学多識であり、その上機転の利く方で、ジョークもお上手でした。いつも熱心に指導して下さい、時には浅学の私たちにもわかるように話して下さい優しい先生でもありました。話しながら、時々いたずらっぽく笑われる姿が印象に残っています。

ある授業で、先生が若かりし時にテレビ出演されたビデオを拝見しました。授業の時も流暢に話される先生でしたが、そのビデオの先生はまるで弾丸ト一